

指標名: 法人企業景気予測調査(2013年7-9月期)

発表日2013年9月11日(水)

～景況感は大幅改善。13年度経常利益計画も上方修正が進む～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 星野 卓也

TEL : 03-5221-4526

貴社の景況判断BSI : 総括表

(%ポイント)

	大企業				中堅企業				中小企業			
	25年				25年				25年			
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
全産業	( 5.9)	( 14.0)	( 11.5)	8.5	( 1.0)	( 10.0)	( 9.7)	6.8	( ▲ 11.3)	( 0.1)	( 1.1)	▲ 4.5
製造業	( 5.0)	( 16.6)	( 15.8)	9.0	( 1.1)	( 8.0)	( 11.0)	3.6	( ▲ 12.9)	( ▲ 0.9)	( 7.0)	▲ 2.8
非製造業	( 6.4)	( 12.7)	( 9.1)	8.2	( 1.0)	( 10.6)	( 9.4)	7.7	( ▲ 11.0)	( 0.4)	( ▲ 0.1)	▲ 4.8
		12.0	9.8			9.6	9.5			▲ 8.7	▲ 0.6	
		15.2	13.5			11.7	8.3			▲ 12.7	0.4	
		10.4	7.8			9.0	9.8			▲ 7.9	▲ 0.8	

(出所) 内閣府・財務省「法人企業景気予測調査」

(注) 1. BSI = 前四半期と比較しての「上昇」-「下降」。

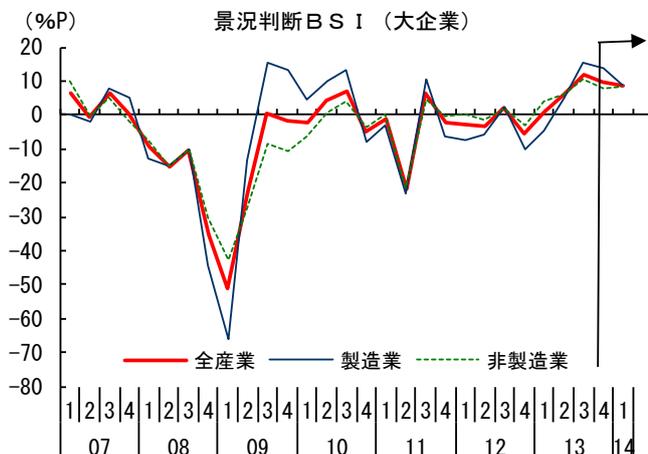
2. ( ) 書きは前回調査結果。

## ○景況感は前期から一段と改善

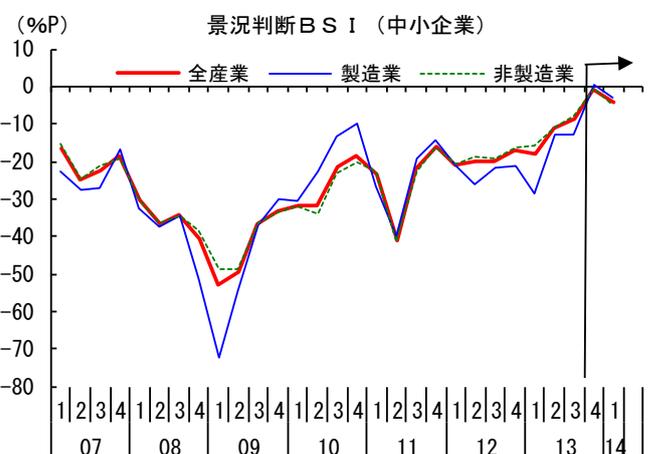
本日、財務省と内閣府から発表された法人企業景気予測調査（調査時点：2013年8月15日）によると、大企業全産業の景況判断BSIは+12.0と前期（+5.9）から「上昇」超幅が拡大した。これで3期連続の改善であり、景況感の改善傾向は鮮明なものとなっている。業種別にみると、製造業（4-6月期：+5.0→7-9月期：+15.2）、非製造業（同+6.4→同+10.4）共に改善しており、特に製造業の業況改善が大きい。

大企業製造業の内訳をみると、はん用機械器具製造業（同▲8.5→同+27.1）や自動車・同付属品製造業（同▲3.5→同+18.7）などの改善が目立っている。円安による輸出採算の改善が、企業の景況感の改善に繋がっていると考えられる。大企業非製造業では、建設業（同▲2.5→同+17.7）や小売業（同+7.8→同+16.4）が良好な結果となっている。建設業については公共投資や住宅投資の増加が、小売業については個人消費の好調がそれぞれ景況感の改善に繋がっているのだろう。

なお、中小企業の景況判断BSIは全産業で▲8.7と前期（▲11.3）から「下降」超幅が縮小しており、景況感の改善が進んでいる。内訳をみると、非製造業（4-6月期▲11.0→7-9月期▲7.9）に改善がみられる一方で、製造業（同▲12.9→同▲12.7）の改善幅は小さなものに留まっている。もっとも、先行きは改善が見込まれており、今後は円安や景気回復の恩恵が波及していくことで、中小企業製造業の景況感も改善に向かうことが予想される。



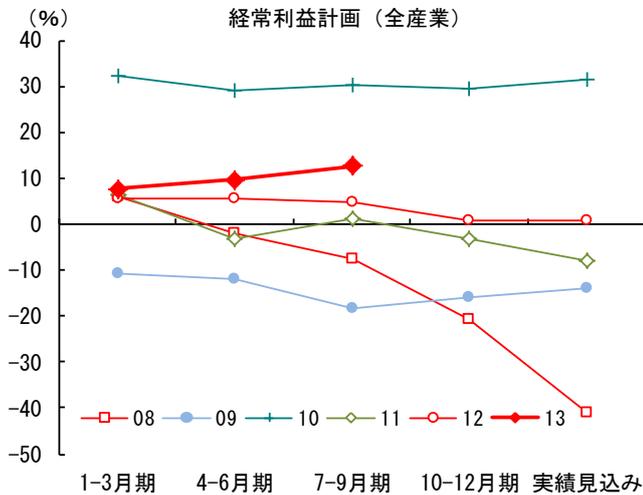
(出所) 財務省、内閣府「法人企業景気予測調査」



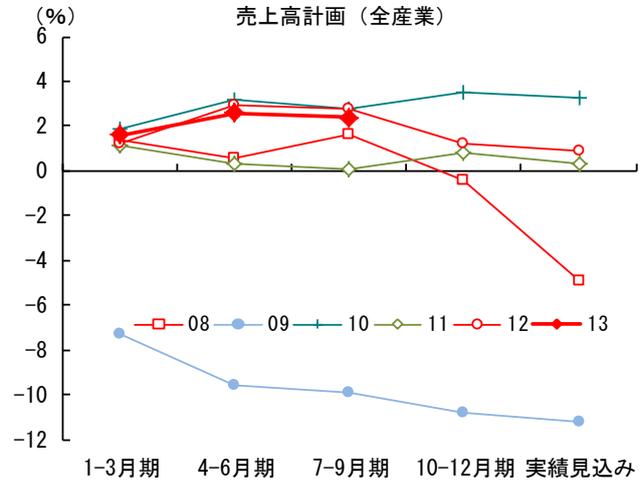
(出所) 財務省、内閣府「法人企業景気予測調査」

## ○ 2013年度経常利益計画の上方修正が進む

2013年度の売上高計画（除く金融保険業）は前年比+2.4%（4-6月期：同+2.6%）とほぼ同水準、経常利益計画（除く金融保険業）は同+12.6%（4-6月期：同+9.7%）と上方修正された。経常利益計画は過去の7-9月期計画と比較しても強い結果だ。経常利益計画を業種別にみると、製造業（4-6月期：同+18.8%→7-9月期：同+21.2%）、非製造業（同+5.0%→同+8.2%）と共に上方修正となっており、良好な結果である。



（出所）財務省、内閣府「法人企業景気予測調査」

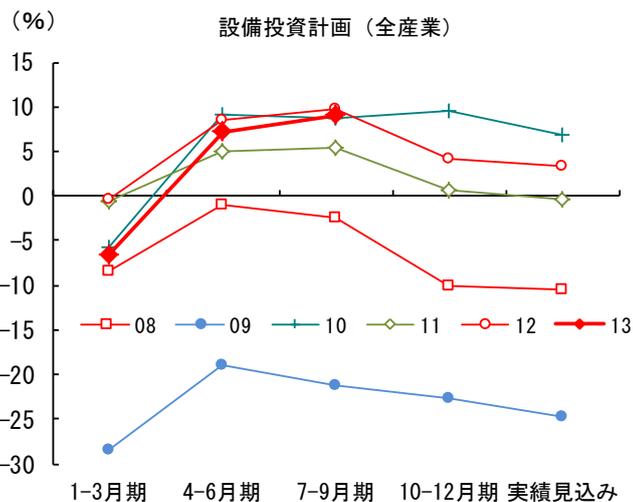


（出所）財務省、内閣府「法人企業景気予測調査」

## ○設備投資計画も上方修正

また、2013年度の設備投資計画（ソフトウェアを含む、土地購入額除く、金融・保険業含む）は前年比+9.1%と、前回調査の同+7.2%から上方修正された。業種別に見ると、製造業（4-6月期：同+5.8%→7-9月期：同+8.5%）、非製造業（同+8.1%→同+9.4%）ともに上方修正、特に製造業の上方修正幅が大きいものとなっている。

4-6月期GDP統計（2次速報）では、設備投資が前期比+1.3%と6四半期ぶりに増加に転じ、設備投資の底打ちが確認された。また、法人企業統計では、製造業を中心に経常利益の改善が急ピッチで進んでいることが示されている。こうした企業収益の改善や、それに伴う景況感の改善が設備投資の追い風になっており、設備投資を取り巻く環境は良好である。7-9月期以降の設備投資も、増加傾向を維持する可能性が高いだろう。



（出所）財務省、内閣府「法人企業景気予測調査」

設備投資は金融保険業含む、土地除く・ソフトウェア含む